# みずほ Mizuho

題字　高校第十六回生の佐藤美佐子さん（旧姓田代）の筆になるものです。

図書館報 NO.43

瀬木学園図書館

愛知みずほ大学・大学院
愛知みずほ短期大学
愛知みずほ大学瑞穂高等学校


## 読書のすすめ

天野　透（大学　特任教授）

大学生のとき、友人に勧められて吉川英治の『宮本武蔵』を読んだのが読書の習慣の始まりでした。全８巻を数日のうちに読み終えたのです。あの時の感動、満足感は今も記憶に残っています。以来、本好きとなった私は主に小説ばかりを何十年も読み続けています。

若い頃はミステリーが多く、松本清張や横溝正史、高木彬光などを手当たり次第に読み、時には山岡荘八や司馬遼太郎、藤沢周平など、歴史物や時代物にも手を出しました。また、年をとってから遅ればせながら純文学に目覚め、夏目漱石、芥川龍之介、三島由紀夫などに立ち寄ったこともありました。近年では、横山秀夫、今野敏、東野圭吾などのサスペンスものや、流行りの池井戸潤、恩田陸、百田尚樹、大門剛明など枚挙にいとまがありません。

読書の魅力の一つは、感動をもたらしてくれるということです。時には、涙がこぼれるほど心を打たれる作品や、読み終えた後に深い余韻が残る本に出会うことがあります。例えば戦争をテーマにした『出口のない海』（横山秀夫）や『永遠の０』（百田尚樹）などは人間の残酷さや愚かさを浮き彫りにする一方で、極限状況の中で見せる人間の強さや希望も描き出しています。また、冤罪や死刑制度に疑問を投げかけた『雪冤』（大門剛明）や、『幻夏』（太田愛）など、問題に直面した人々の姿を描いた作品は、社会の不正義や制度の限界について深く考えさせられるものです。

近年、若い人たちの活字離れが増えていると指摘されています。全国大学生協連による「学生生活実態調査」によると、１日の読書時間を０分と回答した学生の割合は、２０１５年以降50％近くを推移しているといいます。

読書は想像力を豊かにし、創造性を刺激します。文章を読むということは、単に言葉を追うだけではなく、文字の向こうに広がる未知の世界を自分の頭の中で想像し、描き出すことを意味します。テレビドラマや漫画を読み慣れた人にとって、読書はそれなりに努力を伴うものかもしれません。テレビや漫画は文字だけでなく映像まで提供してくれます。親切なだけに安直になり、いつの間にか「創造」することを忘れてしまうのです。

今、学生には「思考力・判断力・表現力」が求められています。スマホでは巧みに絵文字を使ってメールを送っていても、人前で話をしたり、筋道を立てて自分の考えを述べたりすることが苦手な人が多いのではないでしょうか。思考力を高めるには訓練が必要であり、その「思考」の訓練の少なさは、読書の習慣の低さにその要因の一つがあるのではないかと思うのです。「読書」は「思考」を誘発し、「思考」は「読書」を要請するものです。思考力が十分でなければ判断力も表現力も身に付けることは難しくなります。すなわち読書の習慣の不足が思考の狭さを生み、判断力の未熟さや表現力の稚拙さにも影響していることに他ならないのです。若い頃の読書の習慣がいかに大きな意味を持つものであるかということです。

さて、ではどんな本を読むのがよいのでしょうか。私のように小説ばかりを読むのでもよいのかもしれませんが、図書館に行けば大学生が読むのにふさわしい良書がたくさん用意されています。大学生のうちは思想や立場に偏ることなく手当たり次第にいろいろな本を「乱読」することをお勧めします。例えば文学作品は感受性を豊かにし、歴史物は過去からの教訓を教えてくれ、自己啓発書は自身の成長を促してくれます。

忙しい日々の中で、ほんの少しの時間でも本を手に取ることで、別世界に旅する楽しさや、新たな発見の喜びを味わうことができるのです。本のページをめくるたびに広がる想像の世界は、日常の喧騒から離れ、心を豊かにしてくれるでしょう。

## 「絵本の思い出、そして自分で選ぶこと」

谷口　良美（短期大学　特任教授）

絵本にまつわる思い出からお伝えしたい。私自身、幼少の頃には保育園でペーパーバックの月間絵本をもらってくると、母親に「よんで」とお願いしていた。忙しい中でも、母親はページをゆっくりめくりながら読んでくれた。とても心地よかった記憶の一つである。また私には８歳下の弟がおり、弟が保育園から月間絵本を持ってくると「お姉ちゃんが読んであげる」と言わんばかりに奪い取り、まず私がその絵本を楽しみ、その後弟に読んでいたことを覚えている。

母親になり、子どもたちとの絵本の楽しみは、寝る前の読み聞かせであった。子どもたちは自分の好きな絵本を持ってきて布団に入る。仕事で疲れていた私は、１冊を読み終える前に子どもより先に寝落ちしてしまったことも数えきれない。はっと目覚めて、子どもたちの寝顔を見て「しまった」と反省。子どもとの大切なふれあいの時間の苦い思い出である。

我が子も父親となり、関西方面に居を構え生活している。遠方故、いつも孫と関わることができるわけではない。しかし今は便利な動画アプリがあるもので、息子のパートナーが毎日のように動画を更新してくれる。そこでは、親子のおやすみ前の絵本タイムの様子、小学校１年生の孫娘が１歳に満たない弟に絵本を読んであげる姿、２歳の孫が字も読めないのに絵本を見ながら朗々と唱えている様子などが映し出されている。なんともほほえましい姿で、タブレットや携帯を手にニヤけてしまう毎日である。

私は40年間保育職に就いていた。その中で数えきれないほどの絵本を園児たちと楽しんだ。子どもたちの興味や発達、季節に合わせて絵本棚に準備したものだ。保育園では週末になると「貸出絵本」をしていた。子どもたちが自分で好きな本を選んで、絵本袋に入れて持ち帰る。どの保育園でもあることだったが「好きな絵本を自分で選ぶ」というのは、とても大切なことだと改めて気付かされることがあった。先日とある講演会で〝子どもの権利〟について「子どもが好きなものを自分で選ぶことは意見表明権の保障であり、それが認められ受け止められることで主体が形成されていく」と学んだのだ。そういえばずいぶん前の保育士時代、何週も同じ絵本を借りていく子どもがいた。保護者は「もう３回目だよ、こっちのほうがいいんじゃない？」と違う絵本を指さすが、子どもは「これがいい！」と譲らない。私は「この本、大好きなんだね。お母さん、今週も読んであげてくださいね」とお願いした。その時の私は子どもの意見表明権についてなんかこれっぽっちも考えていなかったのだが…。我が子も図書館に連れていくと、瞳をキラキラ輝かせて借りていく絵本を選んでいたことを思い出す。その我が子らは私と同様、自分で選んだ人生を歩んでいる。

現在、高校生向け出前講座「絵本の魅力～読み聞かせについて～」に出かける際には、瀬木学園図書館からたくさんの絵本を借りていく。絵本を前に生徒たちは「この絵本、家にある」「私、知ってる、小さいころ大好きだった」と思い思いの絵本を手に取り、会話が弾む。子どもの頃に読んだ（読んでもらった）絵本を実際に読み返したり、初めての絵本を読んだり。授業の最後に、好きな絵本を選び友人に読み聞かせをする。読み手も聞き手も自然と笑顔に変わる。豊かな子ども時代を過ごしてきたのだと思うと保護者の方に感謝である。

瀬木学園図書館には絵本から一般書、専門書まで多くの書物がある。好きな本を選んでみるといいと思う。誰にも押し付けられることなく自由に。それがあなたのこれからの人生を選ぶことにつながるから。決して大げさなことではない、自分で選んで手に取ってみてほしい。誰もが持っている意見表明権を行使しよう。

## 図書館エトセトラ♪

～図書館の活動や出来事を紹介します～

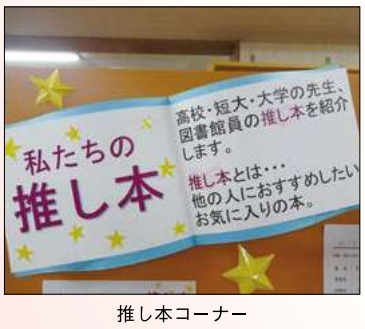
**〈New Open〉** 大学・短大２号館の大規模な改修工事が2024年３月末に終わりました。新しくできたラウンジには壁面に大きな飾り棚が設置されており、そこに図書館の本を飾っています。学生の憩いの場所が、本に親しんでもらう場所にもなればいいなと思います。

**〈図書委員会〉** 高校図書委員会の活動を盛んに行っています。委員の生徒は書架整理をしたり、図書館行事の時に色々なお仕事をしたりしています。みんな嬉しそうに図書館に来てくれます。

ブックリサイクルでは本の整理やチェック

図書館フェアでは前日に笹のセッティング

**〈推し本〉** 高校・短大・大学の先生方に推し本を募集しました。様々な視点から、たくさんのジャンルの推し本が集まりました。今後も先生方と連携をとりながら、続けていきたい企画です。




推し本コーナー

図書館員の推し本もあります